

## メッセージアウトライン テサロニケ人への手紙 第二2:1～12 「終末についての教え」

[1-2]「さて兄弟たちよ。私たちの主イエス・キリストが再び来られることと、私たちが主のみもとに集められることに関して、あなたがたにお願いすることがあります。霊によってでも、あるいはことばによってでも、あるいは私たちから出たかのような手紙によってでも、主の日がすでに来たかのように言われるのを聞いて、すぐに落ち着きを失ったり、心を騒がせたりしないでください」

当時のテサロニケ教会においてはある者は「霊によって」すなわち聖霊に導かれたという者があったり、あるいはパウロたちの「ことば」であるという者があったり、またある者はパウロたちから出たかのような手紙を偽造して主の日がすでに来た、つまりキリストの再臨の時、世の終わりの時が来たのだと言っている者たちがいた。→偽教師

キリストの再臨が近いと信じて熱狂的になる者はしばしばこのように狂信的になり、またそのような人々に動かされやすい。それゆえ、パウロはそのようなことで落ち着きを失ったり、心を騒がせたりしないようにと警告するのである。

[3]「だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです」

パウロは主イエスが再び来られる前に、まず起こってくる出来事があると教える。それが起こらない限り、主の日はまだ来ていないということの確かな証拠となる。まず「背教が起こる」。これは全世界的な規模で信仰を捨て、墮落していく人々が起きてくるという意味であろう。それに続いて「不法の人、すなわち滅びの子」が現れる。この人物についての詳しい記述は次の4節。

[4]「彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します」

彼は世界中で神と呼ばれるものすべてと、また礼拝の対象となるすべてのものよりも自分は高く偉大なものであるとし、さらに神の宮（この場合、イスラエルの神殿と思われる）の中の神のみにふさわしい座に自らを置き、自分こそ神であると宣言する。このように不法の人において神への反逆は頂点に達する。→ダニエル11:36以下参照

[5]「私がまだあなたがたのところにいたとき、これらのことをよく話しておいたのを思い出しませんか」

パウロが説明したことは、かつて彼がテサロニケ滞在中に教えたことであって、新しく付け加えたものではない。彼はそのことを「思い出しませんか」と語りかける。初めから宣べ伝えられている健全な福音を思い出せば、テサロニケ人たちは今直面している問題に答えることができ、堅く立つことができる。何か神秘的なもの、目新しいものを追い求めることに解決があるのではない。信仰者は常に正し

い福音に立ち返らなければならない。

[6-7]「あなたがたが知っているとおりに、彼がその定められた時に現れるようにと、いま引き止めているものがあるのです。不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引きとめる者があって、自分を取り除かれる時まで引き止めているのです」

6節の「引き止めているもの (ト ケクツ) 中性名詞」は原理を示し、7節の「引き止める者 (ホ ケクツ) 男性名詞」はその具体化した人間を示していると考えられる。この箇所についてはいろいろな説があるが「引き止めているもの」は神の教会に内住される聖霊、「引き止める者」は聖霊の働きによってこの地上で地の塩、世の光としての役割を果たし、神に敵対する悪の力が秘密のうちに増大しないように活動するクリスチャンたちのことと思われる。彼らは携挙によって取り去られる時までこの地上で不法の人が出ないように引き止める働きをする。

[8]「その時になると、不法の人が現れますが、主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわれます」

引き止める者がいなくなる時、不法の人が現れ、4節にあるように自分を神と宣言するに至るが、ついに再臨の主によって滅ぼされる定めにある。それゆえこの不法の人は3節にあるように「滅びの子」なのである。

[9-10]「不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行われます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです」

「不法の人の到来は、サタンの働きによる」→黙示録13:1-8

「真理」とは福音の真理(ガラテヤ2:5,14)のことであり、滅びる人々はこの救いに至る真理を愛することを受け入れなかった。つまり、福音を聞いてもそれを受け入れることを拒絶したのである。

[11-12]「それゆえ神は、彼らが偽りを信じるように、惑わす力を送り込まれます。それは、真理を信じないで、悪を喜んでいたすべての者が、さばかれるためです」

「神は…惑わす力を送り込まれます」…これは真理を拒否したことに対する神のさばきである。神は悪の力、サタンの活動に対しても絶対的な主権を持っておられ、その力を用いてでも目的を遂行されるのである。→ヨシュア11:20 , I 歴代誌21:1 彼らは人を救いに導く福音の真理を信じないばかりか、悪を喜ぶ人々であった。それゆえに、ついには神のさばきもたらされ、滅びに至るのである。

私たちも以上のことをしっかりと理解して、誰にも、どのようにもだまされたり、心を騒がせたりしないで、落ち着いて日々の信仰生活を送り、いつ主キリストが来られてもよいように、神のみこころにかなった正しい生き方に励まなければならない。